

岩手県内図書館連携企画展示の取り組み

－図書館の医療・健康情報サービスの定着に向けて－

川崎かおる，小山田翔太
岩手医科大学附属図書館

I. 背景と目的

2016年より岩手県公共・大学・専門図書館等連絡協議会におけるミニ研修、県内図書館連携企画展示など県内図書館の医療・健康情報サービス支援に取り組んできた。

中でも連携企画展示は、図書館等での医療・健康情報取扱いの敷居を低くすることを念頭に「医療情報提供サービスの定着」「図書館間の連携」などの目的を掲げ、年2回の開催を継続している。

II. 実施方法

- ① 過去の参加館アンケートを参考に、次年度テーマ、日程を検討 [前年11月]
- ② 岩手県公共・大学・専門図書館等連絡協議会で提案 [当年2月]
- ③ 学内WGで内容・役割分担を決め、資料作成等準備開始 [開催2カ月前]
- ④ 県内図書館にポスター、実施要項案を示し、参加館を募集 [開催1.5カ月前]
- ⑤ 掲示用資料等を配布 [開催3～4週間前]
- ⑥ 各館で展示準備
- ⑦ 各館展示リスト、展示風景の共有 [期間中随時]
- ⑧ アンケート実施 [終了後]

III. アンケート結果から

- ・ 参加館：毎回ほぼ半数が常連館、残りはテーマにより変化している。
- ・ アンケート回収率：当初はほぼ100%だったが微減しており、要望により開催期間に幅を持たせたことの影響も考えられる。
- ・ 企画・内容への満足度は高位を維持している。
- ・ 参加館間で展示方法や蔵書の情報が共有でき、ステップアップにつながっている。

IV. 成果と課題

参加館ごとに地域の特色を取り入れたり、他部署・機関とうまく連携したりした工夫をしており、その内容を共有できていること、これまで苦手意識の強かった医学分野の選書、取り扱いへのハードルが多少なりとも下がって来ていることが、最大の成果と思われる。

また、本学への選書の相談やレファレンスの問い合わせ、相互貸借依頼などが見受けられ、連携による医療・健康情報サービスの前進が伺える。

更に参加館のすそ野を広げること、企画段階から各館が意見を出し合い本学がサポートに回るような体制づくりが課題として挙げられる。